

令和5年9月25日(月)
内子分庁3階大会議室

内子町部活動地域移行推進連絡協議会(第4回)会議録

内子町教育委員会

◆協議1 拠点校部活動の種類と活動内容・方法・場所について

- 委員 A案にするかB案にするか、なかなか決めづらい。平日の移動をどうするかが課題になる。
- 委員 来年はB案にし、徐々にA案に移行してはどうか。
- 委員 A案に賛成。ただ、人数が増え出場機会が減ることが心配である。
- 委員 B案に賛成。陸上・水泳競技の出場についても、拠点校について議論が必要だと思う。
- 委員 B案に賛成が多かった。
- 委員 B案に賛成。ホームページがスマートフォンでは見づらいという意見があった。意見を伝える方法も機能していないようである。
- 委員 B案に賛成が多かった。
- 委員 指導者として、協力希望者とあるのは指導いただけると考えてよいか。
- 事務局 拠点校部活動は、基本教員が指導してきた今までの学校主体の体制を維持しているので、顧問が担当することになる。
- 司会 全体の意見としてB案で進めていく方向でよいか。
- 委員 異議なし。
- 司会 拠点校にした場合、何かの部活動には入らないといけないのか。
- 委員 強制にすると自由加入としている学校と合わなくなるのではないだろうか。
- 委員 自由加入で良いと思う。やる気がないのに入るのはどうかと思われる。
- 委員 部活動の目的について学校側はきちんと説明しているのか。
- 委員 学校側は説明している。
- 委員 部活動紹介はどうするのか。
- 事務局 2月に町内一斉に部活動紹介を行う予定である。
- 委員 地域移行について見た目にわかりやすい資料をお願いしたい。

◆協議 2 部活動の指導者について

委員 拠点校では先生が指導するということでよいか。

事務局 今まで通り教員の指導で進め、部活動の幅が広がるイメージである。
まずは先生に担ってもらって、令和8年度までの間に指導者を発掘する流れを作りたい。

委員 拠点校の仕組みと地域移行とは別物なので説明が必要である。

委員 令和8年度以降の地域移行の全体像が見えないので、令和6年度からのことについても決めづらい状況がある。

委員 令和8年度以降に指導者がいない場合どうなるのか。

事務局 令和8年度以降については、取組を進めながら検討していく必要がある。本協議会を来年度以降も継続協議しながら、令和8年度以降の体制づくりを進めていく必要がある。

委員 令和8年度以降でも教員は兼業として協力してもらわないと部活動が終わってしまう可能性がある。そういった面で財源確保が大事だと思う。協力してくれる教員はいる。教員が兼業で協力できる体制づくりが必要である。

委員 その年の人数によって拠点校が増える場合もあるのか。単独でできる場合でも決まった拠点校に従うのか。

事務局 増える想定はあまり考えていないが、状況によってどうするのか、原則としての考えは持っていた方が良い。

◆協議 3 その他

事務局 B案でアンケートをとる予定だが、現在の拠点校の案から変更はあるか。

委員 剣道は剣友会の関係から、内子中（五十崎中・大瀬中）と小田中を分けた方がいいと思う。

委員 ソフトボール部は、練習の場所としては、五十崎中学校が望ましいので、拠点校を五十崎中学校にする方向でよい。